

日刊 發行編輯人 川崎文治 本社下町番地（電話六三〇番）印刷所 常盤毎日印刷所



刊夕日九月十

定額 一月五元 半年二十五元 一年五十元 廣告 一日一元 三日三元 五日五元 印刷 每行一文字 每行一文字 印刷 每行一文字 每行一文字

家庭講座 兒童に及ぼす 童話の感銘 (九) 仙台放送局の講演速記 川崎小鳥講述 而しながら同じ嘘にして

味、教訓が幼ない者の心持 ちの上に無意識的に植え付 けられる働きがあるのであ

考へられないのであります なせかと云ひば、兒童は偉 大な空想家だからでありま



外科 婦人科 内科 × 光線科 平町字田町 赤十字病院 (電話四七九番)

マル柴田書店 平町四丁目 電話二三四番

御大典用 軒提高張 提灯行列用 赤白提灯の注文は是非スガノヤへ 石城郡平町四丁目 スガノヤ提灯店 電話七二二番

原齒科醫院 平町土橋通り電話三一三番 美味...大量...時節柄...安値 御試食の上...御判談を

筑前琵琶教授 有山旭千師直門 古流 盛花 教授 松澤齊 吉田理秀 永久不變 美術引伸 齋藤寫真館

蒲鉾 賣出し廣告 夏期氷水販賣中は御引立に預り豫期以上の盛況を見て終了するに至つた事を厚く御禮申上げます。今回氷水販賣終了と同時に例年の如く蒲鉾製造を開始致しましたから倍舊の御用命の程懇願致します。

父文平儀本日葬送の際は遠路 拘不御會葬被下殊に御香奠を賜り 難有御禮申上候實は一々拜趨御禮 可申上處混雜中に付不取敢乍略儀 以紙上御厚禮申上候 昭和三年十月九日 男 桐谷文雄 外親戚一同

小生儀先般病氣に罹り其の後静養の必要を認め一時歸郷罷在候處爾來幸に經過良好全く舊に復し候に付此度歸平の上左記事務所を定め從前の通り一般訴訟事務を取扱候間倍舊の御高顧を垂れられ度此段謹告仕候 昭和三年九月廿二日 福島縣石城郡平町字田町 十九番地(末廣向側) 辯護士 漆畑元吉 電話一〇八番

和洋結髪 美容洗白 美赤毛 洗瓜 御婚禮御仕度 平四軒町 電話五二五番 相かわらす 水野化粧院へ

渡し船が顛覆し 女生徒五名溺る

青年團員が救助

石城郡平窪村から幕の内に通ずる夏井川に架した磐城橋が押流され本日午前七時半頃通學の爲め藤田女學校高女部一年國府田チヨ、同二年薄葉操、同村小學校高鈴木ウメの五名が渡し船に乗り込み同河川の中央に漕ぎ出した折柄突然顛覆し危く溺死せんとしたるを同村消防組員や青年團員に救助された

好間の損害

三千數百圓

九日午前二時半頃好間川氾濫し左記損害を蒙つた
防中好間字下河原地内堤防流失約五十間、損害二千圓
同所流失畑四反歩
同八百圓
同浸水田地五反歩、同四百圓
北好間字挽作畑道廿間欠壞、同二百圓
浸水家屋十六戸同十圓

魚採り老爺

押流されたか

石城郡赤井村大字赤井字窪田木田サク方雇人小野福松(六)は八日午後八時頃から魚採りに外出した儘今朝になつても歸宅しないので捜索中であるが同人が通過したと思はれる同村茨川の橋が流失して居るので同所から押流されたのではないかといふ

江名の漁船三艘不明

其他に二艘大破す

石城郡江名町折戸吉田榮吉所有鯉漁船徳榮丸、須藤武四郎所有同寶榮丸は七日岩手縣釜石を出帆後行衛不明となり同町南町金成長次所有福吉丸は去る五日北海道のクシロを發した筈だが其後音沙汰なく何れも昨夜の暴風雨に難破したのでないかと心配されて居る尙ほ

漁船流さる

消防組出動

石城郡小名濱に寄港中の金生丸(八噸)幸徳丸(十七噸)其他六艘は昨夜十時半頃錨

土蔵が倒壊

豊間の被害

が切斷して危険に瀕し同町消防組員百八十七名非常召集し江名濱下神代砂取海岸に引揚げたが幸徳丸は船体の破損甚だしく出帆の見込みがないと

平驛附近鐵道の死傷者二十八名

事故防止のピラを撒き

平驛が懸命に宣傳

最近鐵道事故が頻發するの鐵道當局は之が事故防止について種々研究をかさねてゐたが平驛では鐵道主事者が警戒する事は勿論だが一に警戒の念を與へる必要ありとしてこの程事故防止注意事項を記したピラを數萬枚印刷し八日から十日まで三日間平町地方各團體平驛乗降者にそれら配布した昨年一月以降本年六月まで一ヶ年半年中に於て常磐線平土浦驛間越東線小川郷平驛間に於て

平の菊花大會に菊人形を陳列

費用約三千圓を投じて大々的に開催する

平町の菊會では昨年同町元公會堂跡の廣場に菊花品評會を催し本縣及び茨城宮城縣其他の同好者に非常の賞賛を博したが今秋は御大典を記念し十一月五日から十九日迄十五日間元郡役所前三百餘坪の廣場に地方として大々的に菊花大會を開催することに決し既に準備中であるが大輪菊及縣產菊

街道改修

有志が劃策

平町より飯野村を経て鹿島村に入り同村大字久保御代を経て小名濱町に至る縣道鹿島街道は地方名だゝる惡道に殊に御代地内に兩側に簇生する雜草を以て半おはれたる路面のおうつろ甚しきに加へて橋梁の腐朽破損甚だしく人馬の交通に支障少からざるものあるの度か改修に關し從來幾度か所轄平土監督所に陳情する處あつたが未だその實現をみるに至らず近來一層その甚しきを加へ來つたので鹿島村有志は鈴木辰三郎氏その他地元選出縣會議員を動かしてその筋に向つてこれが改修實施の運動に着手すべく寄つて協議中である

東部電力が.....

電灯料を大割引

御大典を奉祝して

一夜の點火料僅か六錢

御大典も近づいた事とて平町の各區ではそろそろ奉祝準備に取りかゝつたが東部電力株式會社平營業所も此際奉祝の誠意を披瀝して特に夜間裝飾電灯の割引を爲すべく本社と打合せ中の處奉祝燈灯及び雪洞等の取付料は普通一灯八十錢であるけれども此際は取付料(取外しも含む)を左記の如く割引し

▽十灯迄、四十五錢▽廿

燈迄、四十錢▽卅灯迄、川五錢▽その以上、卅錢尙ほ更らに點火料も平常は十六燭光八錢の處を左記の割合で

燭別 手灯以上 百灯以上 十六燭光 七錢、六錢 二四 同 八 七 三二 同 一〇 九 五〇 同 一〇 一〇 一〇〇 同 二〇 一八 犠牲的に割引する由であるから百灯以上點火の割合は一夜の點火料が僅かに六錢

住吉本店よ 東三越來る

廿八九の兩日

東京三越呉服店にては秋久季節向の新流行品多數を取揃へ廿八九の兩日平町住吉本店に於て出張販賣を開始する事になつた本年は特に御大典前の折柄とて男女洋服及び儀式服の注文に應ずべく裁斷師出張し來る筈

ガマ印懸賞

本縣の當選者

平町古鍛冶町阿康藥舖が過般本紙に廣告した東京三浦商會主催の第二回ガマ印ハイトリ紙大懸賞は全國幾十萬の懸賞者中本縣の當選者は左記の如くである
△一等(天賞堂金腕腕時計)平町研町佐藤清▽二等(同銀腕時計)原の町東町氏家商店▽三等(別製南部鐵瓶)浪江町横山直三郎、原の町松永七

餓首はせぬ

平驛の貨物驛手

平驛では十月一日より驛取扱ひの貨物發送中繼到着全部を鐵道省指定運送店たる合同運送に請負はしめ成績頗る良好でこれがため貨物驛手二十一名は冗員となつたが時節柄餓首等を行はず他に轉職せしめる方針である

募集

文藝其他投稿

藥店、河野田正子、佐藤米助、會田良雄、小澤懷徳後藤あきの、平間シン

之助▽四等(別染風呂敷)

矢吹四郎、森口武、大戸